

第5章 整備の基本理念と基本方針

5-1 基本理念

史跡犬山城跡には、天守をはじめ、特徴的な縄張りを構成する曲輪、石垣、土塁、堀、切岸、堀切、道等、往時の姿を明らかにする要素が残っている。

本丸に所在する木造天守は現存最古であり、国内に現存する5つの国宝天守の一つとして、文化財的、学術的に非常に価値の高いものである。また、犬山市のシンボルであると同時に、これまで城下町のまちづくりの核として機能してきた。

史跡犬山城跡の価値を高めながら、その魅力とともに広く伝え、恒久的な保存を図るための整備の理念と基本方針を以下のように設定する。

整備基本計画の理念

- 犬山城をより良い状態で後世に確実に引き継ぐ
- 犬山城が刻んできた歴史に思いを馳せ、その魅力や価値を身近に感じることが
できる空間を創造する
- 犬山城の歴史や学術上の価値を市民、国内外の来訪者及び次世代を担う子ども
たちにわかりやすく伝え、その歴史的変遷や発展の過程を学習し、体感できる場を
創出する
- 犬山城の新たな価値の発見と魅力の発信により、犬山市のシンボルとしての価値
をより一層高める
- 誰もが安全かつ安心して犬山城の価値や魅力を体感できるような施設環境を整える

5-2 基本方針

基本理念に基づき、次のとおり基本方針を定める。

整備の対象とする時期は、原則として、近世城郭としての最終形であり、古写真、絵図、文献による検証が可能な、幕末から廃藩置県により犬山藩が廃止されるまでとする。

●犬山城をより良い状態で後世に確実に引き継ぐ

① 継続的な調査研究の成果に基づいた、遺構の保存、修復のための計画的整備の実施

- ・ 遺構の分布及び状態を把握するための発掘調査を計画的・継続的に実施する。
- ・ 発掘調査や史料調査の成果に基づき、現状を維持するための修復整備を実施する。
- ・ 史跡の本質的価値を構成する石垣については、石垣カルテ等現状把握のための調査を実施し、修理の必要性や優先性について検討し、保存に向けた整備を計画的に実施する。
- ・ 来訪者動線上にある崩落等の危険性の高い石垣については優先的に修理を実施する。
- ・ 将来的な遺構の保存及び公開・活用に向けた整備にあたっては、犬山城及び城主成瀬家に関する資料の保存・公開・収集、調査・研究、教育普及等を行っている公益財団法人犬山城白帝文庫とのさらなる連携を図っていく。

●犬山城が刻んできた歴史に思いを馳せ、その魅力や価値を身近に感じることができる空間を創造する

① 犬山城の特徴的な縄張り構造を現代によみがえらせる

- ・ 城前広場付近から天守に至る大手道は、犬山城の縄張り構造を知る上で重要な要素であり、史跡の本質的価値を構成する要素である。犬山城の特徴的な縄張り構造をよみがえらせるため、縄張り構造を構成していた櫓、門、大手道等のうち、発掘調査の結果、史実に基づく復元あるいは遺構平面表示が可能なものについては、本質的価値の顕在化のための整備を検討する。

② 城内への出入口、正門としての大手門枳形跡の顕在化

- ・ 大手門枳形という犬山城の正面入口としての役割、往時の姿を伝えるための遺構を顕在化する整備や来訪者の案内や犬山城の体系的な解説等を行う施設の設置を視野に入れ、発掘調査に加えて絵図や古写真、史資料等による歴史的な考察を行う。

③ 城郭内の建物跡の復元検討や遺構表示など公開や展示への反映

- ・ 礎石が残る七曲門等門跡をはじめ、絵図、古写真、史料等の記録が残る城郭内の建物跡等については、考古学的、歴史学的調査を実施し、まずは遺構の残存状況の把握を進める。発掘調査等の成果により位置づけが明確になったものについては、復元や遺構表示等による顕在化を図るとともに、調査成果の公開や展示への反映などを行う。

●**犬山城の歴史や学術上の価値を市民、国内外の来訪者及び次世代を担う子どもたちにわかりやすく伝え、その歴史的変遷や発展の過程を学習し、体感できる場を創出する**

① 犬山城大手門枳形跡（犬山市福祉会館跡地）の整備

- ・ 犬山城の価値と魅力の発信拠点として、「価値の顕在化を図る場」、「情報発信の場」、「学びの場」、「憩いの場」、「集いの場」という5つの側面から検討する。
- ・ 史跡犬山城跡へのアクセスルート上に所在する他の施設の役割についても検討し、既存の施設との棲み分けを考慮して施設の機能を検討する。
- ・ 最新の技術を活用した情報発信についても並行して検討する。
- ・ 障害のある来訪者に向けた音声案内や点字、触れることのできる説明施設や映像等による解説を充実させる。
- ・ 整備内容については関係委員会で十分審議するとともに、市民等からの意見を踏まえて検討する。

② 史跡としての遺構保存と歴史的景観の創造

- ・ 史跡の本質的価値を阻害する要素が存在する場合、建物の老朽化や史実に関係のない施設等が歴史的景観や環境を損なっている場合については、それら施設がその場所にある必然性と史跡としての遺構保存、歴史的景観の創造について検討を行ったうえで、撤去、移設、再配置等の措置を講ずる。

③ 多方向からの犬山城への眺望景観の維持と遺構保存

- ・ 名勝木曾川に指定されている範囲においては、名勝としての景観保全と周辺環境から城への眺望景観の両方を担保すべく、植生管理に努める。
- ・ 石垣等の遺構の倒壊、緩み、孕み等の要因となる管理対象木への対応として、樹木調査の成果を基に策定した植生管理方法に基づき、計画的な伐採管理及び日常管理に努める。

●**犬山城の新たな価値の発見と魅力の発信により、犬山市のシンボルとしての価値をより一層高める**

① 国宝・史跡・名勝の三位一体を意識した整備

- ・ 国宝天守、地形を利用した立地と縄張りにより堅固な防御を可能にした城郭構造、城山の背後を流れる名勝木曾川、これら3つの要素を兼ね備えているのが犬山城の特徴であり、この3つの価値をまちづくりに活かしていく。

② 城下町から城郭への連続性のある動線の整備

- ・ 大手門枳形跡の公開整備を行う際には、大手門を通して城内に入るといった当時の動線が感じられるようなルートや説明板、サイン等の案内施設の充実を図る。

③ 周辺施設との連携を通じた価値の継承、郷土愛の醸成

- ・ 市域に所在する様々な種類の歴史文化施設、教育機関等との連携を強化し、周辺地域への回遊性の向上も含めて、犬山城の歴史的・文化的価値の継承、郷土愛の醸成に資する企画・催事等を検討する。

④ 犬山城を核とした城下町としての一体的な活用

- ・ 史跡指定地外の犬山城下でも、絵図や古記録等から犬山城の価値に関連する要素が遺存している可能性のある場所においては、遺構の分布及び状態を把握するための発掘調査を実施し、犬山城との関連性が明確になったものについては、史跡犬山城跡や城下町との一体的な活用を検討する。

●誰もが安全かつ安心して犬山城の価値や魅力を体感できるような施設環境を整える

① 現代のニーズに対応した活用施設の整備

- ・ 来訪者の快適性確保、見学の際の安全対策など、誰もが安全かつ安心して見学できる施設整備を検討する。
- ・ 天守入口のテントについては、天守の正面外観の美観を維持し、入城管理の効率化、来訪者の快適性の観点も考慮した代替施設を整備する。
- ・ 来訪者のための安全でわかりやすい動線を確保する。
- ・ 来訪者の安全対策として、転落防止の柵、防災のための施設等を設置する際には、歴史的景観に配慮し、遺構に影響を与えないように配慮する。
- ・ 計画策定、施設等の設計に際しては、遺構の視認性、地下遺構の保存への影響が軽微な場所を選定して、可能な限り段差の解消に努めるとともに、さわれる展示物の設置、説明板については音声案内や点字を導入し、板面も色覚多様性に配慮した配色とする、車イス利用者にも読みやすい高さとするなど、バリアフリー・ユニバーサルデザインに配慮する。